

学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月30日(土) 午前10時00分～11時35分

会 場：農村環境改善センター

出席者：住 民 19人(男14人、女5人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 成 澤 明 子

委員 留 守 広 行

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、おはようございます。学校再編についての住民説明会というご案内を差し上げましてご参加、御出席いただきまして大変ありがとうございます。表題の方は学校再編についての住民説明会となっていますけれども、教育委員会で決まったことの説明をするというのではなくて、案を御説明して皆様のご意見を頂戴したいという趣旨でございますので御理解いただきたいと思います。それでは早速始めてまいりたいと思います。開会に当たりまして美里町教育委員会後藤委員長から御挨拶を申し上げます。

《委員長(後藤)》

皆さん、おはようございます。今日はお忙しい中、また、梅雨が明けてこのような暑さの中お集まりくださいましてありがとうございます。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきましては以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐（早坂）》

さっそく学校再編についての住民説明会に入りたいと思いますが、説明会に入る前に、説明する内容が、誰が説明をして、皆様に誰が答えているのかがわからないということがないように、あらかじめ出席しております教育委員会の委員及び職員の紹介をさせていただきます。委員長から自己紹介ということでお願いします。

（出席者7人が自己紹介をする。）

《課長補佐（早坂）》

それでは早速、再編についての説明をさせていただきます。説明の方は教育総務課の須田次長の方から説明させていただきます。

《教育次長（須田）》

それでは御説明申し上げます。まず初めに、お手元にお配りしております資料につきまして確認をさせていただきます。3部ほどございます。一つは次第、2つ目は今日の説明会の説明の資料と、それから児童生徒数の一覧表です。この一覧表の資料につきましては、1か所目の会場で児童数と生徒数の今後の推移の表があるとわかりやすいのではないかとのご指摘をいただきまして、2か所目の会場から追加で配らせていただいております。

本日はこの左上で綴じています数枚の資料で御説明をいたします。1枚目につきましては、周知用のチラシでございます。7月1日号の広報みさとにページに掲載させていただいております。このチラシのねらいは2つございまして、1つは、このような会を催すということ、このような住民説明会を行いますよ、場所は8箇所がこの日のこの時間ですよというのが下の一覧表です。本日は3日目で7月30日午前10時からはこの場所、それから午後は佐野地区で、夜は練牛地区で開催するという予定です。先週まで土曜日、日曜日、小牛田地区で5か所行ってきました。こういう説明会があるということを伝えるということが1つ

（のねらいとして）あります。それから先ほど委員長からもお話ししました現在の教育委員会の考え方、これを少しでも多くの方々に知っていただくために、真ん中部分に中学校の再編、小学校の再編、教育委員会の考え方をお示ししております。中学校の再編、小学校の再編についてはここに書いている通りでありまして、中学校の再編については平成33年4月開校を目標に3つの中学校を一つにしたいという考えであります。小学校の再編につきましても将来的には、遠い将来になるかもしれませんが美里町を1校にしたいという考えです。その経過措置として現在の中学校区に1校ずつの3校体制を組みたいということです。先ほども申し上げましたように、7月1日号の広報みさとに掲載し、更に、一番下に書いていますが、各会場で事前に置かせていただきましてお配りしております。それから夏休みに入る前の7月15日だったと思いますが、幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒に家庭へ持ち帰りで持って帰っていただきまして、家庭の方へこの綴じたままの状態でお配りしております。それでは2枚目をお開きください。2枚目につきましては、先ほど委員長から申し上げましたように教育委員会から皆様への挨拶であります。こちらは委員長の挨拶と重複しますので飛ばさせていただきます。3枚目から説明資料になります。先ほど、

司会の早坂からも申しましたように住民説明会ということで決まったものを説明の来るといふ大変不手際な名称をつけてしまったと反省しております。これまでの会場でそれぞれ御指摘いただきました。説明会というと何か決まったものの内容を説明するだけかという話でありましたので、現在の教育委員会の考えをお示しますが、そしてそれに対する皆さんのご意見をお聴きしたいということで意見を聴く会、意見交換会という形で進めさせていただきたいと思っております。今後このような催しをする場合にはタイトルにも十分注意してつけていかなければと反省しております。よろしくお祈いします。このページ1と振られているところは次第でありまして、ほかの資料と重複しますが、3の説明のところをみてください。この資料に書いている内容、主にポイントでございますが、①から⑥までまとめています。①と②については中学校の再編のことを書いています。③と④については小学校の再編のことについて書いていますので、そちらの方を御説明します。⑤については再編の費用、事業費等についてどう考えていくのかということをお話させていただきます。そして最後に今後の取組についてと6つのポイントをここにかかげていますのでそれに沿って説明をさせていただきます。それでは2ページ目をめくっていただきまして、中学校の再編をなぜ行うのかという点です。2つの理由について書いています。これはどっちが優先するという話ではありません。まずは、生徒数が今後も減少するであろうという問題です。もう一つは学校がそれぞれ古くなってきているという問題です。この2つから教育委員会としては考えてございます。具体的には、小牛田地域の不動堂中学校と小牛田中学校につきましては既に50年を超えている校舎、50年近くになる校舎でありますのでこのまま放っておくわけにはいかないということです。毎年、毎年、修繕を加えながら学校生活に支障のないように維持していますが、このまま修繕の繰返しで維持していくことは好ましくないということで、この古くなっている2つの校舎をなんとかしなければならぬと、これが最初の発端であります。大規模改修をしていくのか、あるいは、新しく建てるのか、しかし、新しく建てるとなると何十億円です。二か所を建てるとなると町の財政的にはかなり厳しいものがあります。では、二つをどのようにしたら良いか。それから南郷地区の南郷中学校につきましても、36年過ぎています。あと20年もするとかなり古くなってきます。それからもう一つの問題は、南郷中学校が今137人と記憶しておりますが、全校生徒の数が減ってきているということです。1年生から3年生までで137人、それで来年は今の3年生が59人抜けて、新入生が、南郷小学校の6年生がそのままストレートに入学すると39人が入学すると記憶していますが、そこでまた20人減ります。それで110人、100人そこそこの人数まで減ってきます。これが今後また増えるという見通しがとれると良いのですが、現在の南郷小学校の人数から見るとこれからは増えることはなく、南郷中学校は減っていくだろうと考えています。そういった問題も含めながら将来的には美里町には中学校が1つになるのかなという考えです。先ほどらいこれはたたき台、現在の教育委員会の考えとして、これに対するご意見をお聴きしたいと考えております。教育委員会としてはこの3校を1校にしてはどうかという考えです。これについては特に決まったことではありません。

今教育委員会の中で持っている考えです。それで先週から、今回ゼロからスタートして、皆さんの意見を聴きながらこの案をどうしていくのかを考えていきたいと思っています。今、右側の3ページの再編の内容についても併せて御説明しましたのでこちらは飛ばさせていただきます。次に、小学校の再編についてです。中学校の再編を考える時に小学校の将来の姿を抜きにして決めていいのかという問題も出てくると思います。4ページ目と5ページ目です。特に5ページですが、再編の検討3、2年くらいまでに行って取組はその後の3、3年度あたりからの取組になるのかなと現在教育委員会で考えています。先ほど、1枚目のチラシのところでも説明しましたように将来的は、この将来的というのは大変に長い期間でどの時期というのはまったく言えません、1校になるのではないかと、1校にすべきではないかと、そのように教育委員会では考えています。すぐに1校ではなくて各中学校区単位で小学校が一つになって、そしてそれが将来的には町で一つの小学校になるということです。これがですね、各中学校区単位、小牛田中学校区と不動堂中学校区には複数の小学校がありますので、それらは中学校区単位での再編になるわけですが、こちらはそれぞれの地域によって実情が違います。それぞれの小学校の校舎の老朽化の度合い、それから児童数の状況も違いますので、一緒にするのではなくてそれぞれの地域の実情にあった形で進めていかなければならないと思っています。そちらの方が調整していった後にですね、もし仮にこのように、現在考えているように中学校区単位で3つの小学校が編成されたとき、それで運用して行って、それで学校を運営して行って、その後1校に集約する必要があるかどうかをまた改めてそこで住民の皆さんと検討をしていくと、本当に期間的には長い期間がかかる話でございます。ただし、中学校の再編を検討していく上では小学校の姿についても一緒に検討しようという考えでこのような小学校のビジョンを出させていただいております。これについては今年度を含めて5年くらいで検討をしながら、取組はひょっとしたら10年後、あるいは20年後、5年後、いつになるかはこれからの検討です。皆さんの意見を聴きながら協議をして、美里町の将来の学校の姿を決めていきたいという考えであります。次に最後の6ページですが、⑤の費用についてお話をします。これから当然大きな費用がかかってくるはずですが、今の学校を大規模改修して活用するのか、新しく建てるのか、それによって事業費も変わってくると思います。また、大規模改修についてもどの程度大規模改修をするのか、何をどのように直すのかによっても変わってきます。これらにつきましては専門の業者の方にしっかりと見ていただいて、そして積算をしていただいて、その前に今の小牛田中学校、不動堂中学校を何年くらいもたせることができるのか、その辺から専門業者の方をお願いをして調べていただきたいと思いますと考えています。それらの事業費、使用の可、不可等が出ましたら、再編の内容についてももう一度検討し、そしてその再編の手法についても皆さんと意見交換をしながら、御意見を聴きながら教育委員会としては決めていきたいという考えであります。今後の取組というところですが、そういった資料が整いましたら、再度皆様のところにお邪魔をしながら検討していきたいと。一番下に平成29年3月までに再編の具体的な内容を決定しますと書いていますが、これについては現段階での一つの目標です。目指す

時期ですので、これはまだまだ意見が整わなければ1年、2年と延びるということは十分に
あります。現段階では教育委員会としては、これから半年以上ありますので、皆さんとのこ
のような意見交換会をもっと多く持って、そして保護者の方、PTAの方との意見交換会を
たくさん持ってですね、皆さんの意見に沿った、できるだけ意向に沿った学校の将来の姿を
決めていきたいという考えでありますのでよろしくお願いします。後ろにつけています資
料は、中学校の生徒数でございます。各学校の現在の生徒数と33年4月に統合した場合の
それぞれの中学校の生徒数、それから真ん中の表は3校を1校にした場合、不動堂中学校と
小牛田中学校を1校にした場合のそれぞれのクラスの数、そしてクラスに対する教員数、後
ほど説明しますが統合によってクラスの規模が大きくならないように統合した場合には3
0人未満学級を目指していきたいという考えでございます。30人未満学級を実現した場
合のクラス数と教員の数でございます。それからその下は現在の各中学校の各部活動の部
員の数を載せてございます。裏側につきましては、町の総合計画を28年4月から改定され
て新しいものになっていますが、それを策定する時に人口の推計を行っています。その人口
の推計に基づいて将来の児童生徒数を地区別におおざっぱではありますが推計をしたもの
です。これによりますと2060年、40年後には25%くらい減っていく見通しでありま
す。それから最後には、学校施設の現況概要ということで小学校6校と中学校3校の建設し
た年、建設から何年経っているか、現在の敷地面積、校舎の延べ床面積、そしてCRとい
うのは普通教室の数、クラスルームの数であります。これらを含めて、これらの資料を参考
にされながらこらからの美里町の将来の学校の姿をどのように考えていくのか、皆さんのご
意見を忌憚なくお聞かせいただければと思います。以上でございます。

《課長補佐（早坂）》

只今説明の方をさせていただきましたが、只今の説明について質問、意見等を皆様の方から
頂戴したいと思います。地域の会場をまわって説明をさせていただいておりますので、是非
地域の声をお聞かせいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。どなたかござい
ませんかでしょうか。

《男性》

まず、2ページ目に対する質問ですが、1つの理由として生徒数の減少が進む、それから学
校施設の老朽化が進むという2つの理由であります。なぜここに生徒の学習力のアップ
とかそういうのが盛り込んでいないのか、それが不思議でなりません。再編をすると言っ
てもその辺のところはしっかりと出ないことには、ただ単純に生徒数が減ったからとか建
物が老朽化したからという理由だけではないと思っております。そのためには、学習能力がこ
ういう形でアップしますよとかがあると思っております。2ページ目の理由については疑問
がありますので、その辺のことを聴かせてください。

《課長補佐（早坂）》

只今ご質問いただきました。再編の理由の部分で2つしかないが、そのほかの部分である
のではないかと、その辺を詳しく説明してくださいということでもあります。

《教育長（佐々木）》

おっしゃる通りだと思います。今回の説明資料にはそこまで細部は載せませんでした。これまでの会場でもたくさん御質問をいただきました。それで、学習効果、学習能力それが大事ではないかと、もちろん教育委員会では再編ビジョンを策定するに当たっての基本的な考え方ですが、一番は生徒にとってどうあるべきか、どういう方向で再編を進めていくのかというのが最優先でした。2点目としましては、学校は地域にとっても大切なものであります。地域の住民の皆様、もちろん保護者の皆様も含めて十分に意見を聴いていこうと。3つ目としては、やはり町の財源というのがあります、それらも総合的に、最終的には考えなければいけないという観点でございます。それで1点目の生徒にとって何が良いのかと、もちろん現在でも一生懸命やっています、200名、あるいは100名単位の規模で。400名、500名になりますと、適正規模という文科省でも言っていますが、中規模程度ですか、いわゆる、子ども達が数多い生徒の中で良い意味での競い合いですね、いまでも一生懸命やっていますけれども、やはり交流を深めながら多様な人間関係を通して社会性をさらに身につけていき、将来的にどういった社会に出てもきちっとできていくであろうと、そういった社会性を更に身につけて欲しいと、それがまず第1点であります。当然、生徒数が増えますと部活動、中学校になるとけっこう大きなウェイトを占めております。部活動がすべてではありませんが、やはり自分のやりたい部がないという実態もございます。それから、そこにも書いていますように隣の学校と合同チームをつくって大会に出場とか、そういった部が増える可能性が多々あります。それで、できれば子ども達がしたい部活動、種類を多く設定してやるのも教育的な配慮かなと、そういったことなども考えられます。それから、指導者側でありますけれども、学級数が増えますと、国で決めました定数法、学級数が20であれば何十人、十一学級であれば何人と決められております。統合しますと400名、500名台になりますとそこにお示ししましたようにかなりの教員が配置されます。従いまして、5教科にこだわるわけではありませんが、国語、数学、理科、英語、社会ですか、複数の教員の配置の見込みが立つと、さらに技能教科、保健体育、美術、音楽、家庭、技能教科がなかなか小規模校であると専門教科の先生を配置できにくいと、それで臨時とか講師の方々でなんとか対応していますが、いわゆる指導者層が厚くなり、さらに、そうなれば生徒への学習効果に当然結びついていくはずであります。そういったこともあって、中学校も統合するならば一つになった方が良いのではないかという考え方で進めてまいりました。そういった考え方でありますので、いろいろとご意見をいただきたいと思います。1点目についてはこの程度で終わらせていただきました、それから校舎の件につきましては教育次長の方からお答えさせていただきます。

《教育次長（須田）》

校舎が古くなっただけではなく、今は使えると思います。これから、例えばこうする、大規模改修をする、建てるとなってもですね、5年、何年とかかりますので、今は使えています、今後の対策のためにですね、早め早めに手をうちたいという考えであります。それから、

先ほどの追加で説明しますと、南郷地域には生徒数の減少があると、しかし、施設はまだ築35、6年ですし、体育館も新しい、武道場も新しい、そしてプールもありますので、南郷地域にとってはまだ施設の問題は押し迫ったものはないと思います。しかし、生徒数が先ほどお話ししたように将来的には100人そこそこに落ちてくるということですので、その100人そここの学校としてこのまま存続した方が地域の方々が望むのか、あるいは、規模が少し大きい標準的な学校の方に行ったほうが良いのか、その辺が一番の皆さんのご意見をお聴きしたいところでございます。

《課長補佐（早坂）》

只今お答えさせていただきましたが。

《男性》

教育制度上の生徒数という私も重々知っています。それから学校施設の老朽化、これに関しては、コンクリートというものは約50年が耐用年数です。そうすると小牛田中学校が51年、まだ南郷は30何年なんですよ、2ページ目にも中学校の再編というのがありますけれども、その地域、地域のことをもうちょっと大切に考えないと、これには無理があると思います。なぜかという、どこに中学校が統一になるかわかりませんが、もし小牛田のあの辺に美里中学校ができたなら、南郷地域の太橋とか小島地区の中学生は大変ですよ。部活動をやっている、夜10時、11時ですよ、その辺の地域性を考えてのこの再編計画なのか、それをちょっとお聴きいたします。

《課長補佐（早坂）》

只今のご質問は、再編の部分で地域性を考慮した考えなのかということをお伺いしたいということでもあります。

《教育長（佐々木）》

決して今言われたことを考えないで3校を1つにするということではありません。当然に通学等々の条件があります。美里の場合長いので、どこに建てるかということは大きなポイントになるかと思いますが、今日ここでどの場所に、どの辺りに、校舎を新しく作る場合ですね、どの地域に、どの付近に建設をしたいですという考えをお示しできれば良いのですが現時点ではまったくございません。なぜかという、今いろいろと意見を聴いていて、確かに無茶な話だと言われればそれまでの話ですが、意見をいろいろと聴いてですね、3つを1つの方向で考えなくてはならないという立場に立った場合、今日のはたたき台ですので、その時に具体的に場所なども設定しなければならないかなと考えています。もし、よし、やれと言われた場合はスクールバスの手配とかそういった部分は地域の方々と相談をしながら対応していかなければならないと、そういった基本的な考えであります。決して無理やりですね、南郷地域の生徒を小牛田駅方面へと、そういう考えではありませんので、よろしく申し上げます。

《男性》

只今の回答であります、何か再編有りきのような気がします。そういうつもりで言ったの

ではないと思いますが、聞こえる方によっては再編有りきのような形になってきます。そう
いうことで、先ほど地域のことを良く考えてくれと、地域を考えての発想をやってくれとの
ことと言いました。そこで、皆さん、ここの南郷小学校、南郷中学校がなくなった場合、統
廃合でなくなりますよね、そうするとここの南郷というもともとの伝統のある小中学校が、
この地域はどうなりますか。過疎化するでしょう。だから、ここに行く前に小学校と中学校
の一貫校というのが出てきていない。それがおかしい、だから、再編有りきで言っているの
ではないか、よく考えてください。ここの小学校と中学校がなくなった場合、ここから何も
なくなりますよ、申し訳ありませんけれども。合併して南郷の庁舎もそのままですから、一
部は入っていますけれどもね。よくそこを考えた再編計画、それから小中学校の一貫校とい
うのがなぜ出てこなかったのか。その辺のところを聴かせてください。

《課長補佐（早坂）》

再編有りき、というように受け取れるけれども、という話でありまして、南郷地域の小中一
貫校といった考えはないのか、ということでお話を聴きたいということであります。

《教育長（佐々木）》

今までの流れをお話ししますと、美里町学校教育整備方針という審議会を立ち上げまして
いろいろとご検討をいただきました。その中で、南郷地域の小中学校については小中一貫校
という考え方も当然ありますよと、これは話題として当然出ております。そういった答申を
受けて、教育委員会ではその後再編ビジョンというものを策定しました。再編ビジョンを策
定するに当たって、いろいろ住民の皆様の見解を聴きながら、昨年行ったわけですが、その
中で小学校を先にやったらいいのか、中学校が先なのかと、そういった御意見もいただきま
した。教育委員会では中学校を先にすべきではないかという御意見をいただき、そして教育
委員会で協議をして、今回のたたき台をお示ししたわけでありまして。そういった、特に南郷
地域、午後もあります、小中一貫校とかそのほか別な再編等々の意見が出てくることは想
定しています。ですから、いっぱい意見をいただいて、当然に、特に南郷地域につきまして
は小中一貫校などについては更に教育委員会では、そういった意見が出てきた場合には協
議しなければならないという考えであります。ただ、長い目で見た場合にですがお話をさせ
ていただきました。

《教育次長（須田）》

これまでの反省点としまして、正直申し上げますと、我われ事務方をはじめ教育委員会の方
でこのビジョンを打ち出すまでの間、住民の皆さんの意見を聴く機会には本当に少なかった
と、そして時間的にはかかりましたけれども、皆さんの意見をある程度含んだ意見ではなか
ったと反省しています。それを、先週の二日間、小牛田地域の五か所で行ってきましたが各
会場でまったく同じ指摘を受けています。地域性のことを考えていないというのがどこか
らも出ている意見で、特にこのような南郷地域、あるいは中塚地域、青生地域と中央から離
れた地域に行くに従ってその意見はすごく強かったです。ですので、これをゼロに戻す、白
紙に戻すということは決定はしておりませんが、まずは今回のここをスタートに皆さんと

話を詰めながら、もう一度構築していきたいというのが現在考えているところでございますので、今お話をいただきましたように、南郷地域には小中一貫校として残した方が良いのではないかと、そのようないろいろな案をいただければと思います。小牛田地域でもこういうケース、こういうケースでいろいろな提案をいただきましたので、南郷地域ではこうした方が良いとか、そのような意見をいただければですね、それがまったく今日聴いて終わりではなくて、それを一つの案、そして検討する材料としまして、もう一度作り直しをして皆さんのところへお邪魔すると、そのようにさせていただきたいと思います。

《男性》

私だけ質問するのは恐縮ですが、最後に一点だけおたずねします。6ページの既存の学校の大規模改修と新校舎の建設うんぬんとありますが、これはまだ費用がどの程度かかるかはわかりませんが、もし、ここが統廃合になって小牛田の方に行けば、はっきりと言うところは廃校になりますよね、その後の雑草にしても何にしてもメンテナンスはかかるはずですよ。その費用はどのように考えているのか。現在、練牛小学校でも同じですよ、あれは無くなってもそのままにしておけないですから、そこの維持管理には費用がかかるはずですよ。その辺を見込んだ費用をどのように考えているのか、その費用対効果もぜんぜんありません。その辺のところをもし、わかっているのでしたら教えてください。

《教育次長（須田）》

仮に、そうなった場合にどうなるかですが、当然に町の土地ですので町が責任をもってきちんと管理していきます。その後の利活用についてはですね、今はそこまで検討は及んでいませんが、もし仮にそうなった場合には、教育委員会の立場だけで申し上げさせていただければ、財産は町長に財産権がありますので、いったん町長に返します。返した上で、町長は皆さんの意見を聴きながら、この地域のためにどのような利活用が必要なのかを皆さんの意見を聴きながら決めていきます。いずれにしても町が所有することとなっても町が責任をもってしっかりと管理していくということには間違いございません。これは南郷地域であろうと、小牛田地域であろうと廃校になった学校跡の敷地についてはすべて同じであります。

《男性》

3つの中学校が1つになって生徒数も増えて、部活動だけで言えば活性化はするかと思います。しかし、中学校が一つになった場合にはたぶん真ん中辺りに作るかと思います。そうすると教育長の話では、通学の便はバスを運行するのかなと解釈しています。さっき言われた小中一貫校ですか、南郷地区は隣に幼稚園と保育所があつて、それで小学校といろいろなつながりがあつて、そして小学校と中学校がつながりがあつて、幼稚園、小学校、中学校と何かとても良い環境のような気がします。小牛田地区の場合にですね、この資料のA小学校、B小学校、ここまでは賛成します。しかし、不動堂中学校区、小牛田中学校区、南郷中学校区を一つにするのは、何か地域の活性化とは逆な方向に進んでしまうのではないかと思います。せつかく、ふどうどう幼稚園、こごた幼稚園というのがあるので、ふどうどう幼

稚園は不動堂小学校、不動堂中学校、こごた幼稚園は小牛田小学校、小牛田中学校とそのようなつながりを持ちながら、その方が美里町の将来のためには良いのかなと思っておりません。

《教育次長（須田）》

只今いただいた意見ですね、同じように他の地域でも出ています。中学校区単位でそれぞれ小中一貫校を1つずつ整備してはどうかという意見が出ましたので、良い意見でもありますので今後の検討の材料とさせていただきます。良い意見と私は思いますということですね、ここで判断できませんので。今後、このような意見を含めながら検討をしていきたいと思っております。最初この意見に対する反対意見をお持ちのかた、重複する意見でも結構ですからどしどし発言いただければと思います。そのあとに賛成の意見を聴きたいと思っております。

《女性》

何点かお聴きしたいのですが、一つ目、昨年度お話ししてきた説明会時の内容は白紙になるのでしょうか。小中一貫校について昨年度、実は意見を申しさせていただきましたが、そのことが今回ゼロからというのであれば、もう一度お話をしたいというところもありました。小中一貫校の教育的なカリキュラムの問題とか、本当にそちらにメリットがあるのかというところを検証しなければならない町の方の教育方針として、どちらが良いかを考えなければならないと思っています。人数的な問題ではなくて中身的なところできんとそこは考えた方が子ども達のためになるかなと思っています。小中一貫校に南郷がなったとしても部活動では団体は組めないですね、その辺が部活動があるのですが、そういった部活動の問題としては、部活動の形を変えない限りどこまで行っても全国同じような状態だと思っています。部活動の形を変えるということはスポーツの方ではすごく大きな問題になっているところなので、そちらの方は難しいかなと思いつながりながら聴いていました。そのほか質問が何点かあるのですが、通学距離とスクールバスに関して自分で調べようかと思ったのですがなかなかわからなかったもので、現在文科省の方で進めている通学圏というか、昔だったら小学校4キロだよ、中学校6キロ圏内だよとか、スクールバスとかの関わりもあるのですが、1校になった場合の時間と距離はかなりかかるのではないかなと思ったところと、同時にメリット、デメリットというのが出てくると思うのでそちらの方、あとは平成33年4月開校というのはどうしてかなと、本当にぎりぎりのボーダーラインというか、境界線というのを知りたいと思つた。もうひとつは防災の面、危機管理の面というところで1か所に全部集中させると危険とかそういうのを分散させなくていいのか、そういったところをお聴きしたいと思つた。

《教育次長（須田）》

小中一貫校については教育長から申しあげます。通学バスの件ですが、確か文科省の基準は改定しまして、バスで1時間以内と学校の通学範囲を示しているはずですが。スクールバス、当然ですね、今までと違った通学距離、そして通学範囲が広がってまいりますので、徒歩、自転車というものではなくて、スクールバスの活用が前提になってくると思つた。それで、

隣の涌谷町のお話をさせていただきますと、篋岳中学校、70人くらいの生徒ですが、それを統合することによって5台のバスを購入し、朝1便、帰り2便ずつそれぞれ地域にだしているという形です。そのようなスクールバスの手立てについては統合すれば当然ですね、児童生徒の安全を守らなければなりませんので、スクールバスによるきちんとした通学手段の確保は行ってまいります。それから33年4月の開校というところがございますが、先ほどお話ししましたように小牛田中学校が51年過ぎています、不動堂中学校が46年過ぎています。その都度、その都度改修を行いながら、今この夏には不動堂中学校のグラウンドの改修を行っています。不動堂中学校にはプールがありませんので、スクールバスで南郷の方に送迎をさせていただいております。いろいろな面でこれから直して行かなければならないハードな面の課題があります。これらをなんらかの形で、大規模改修なり、新築なりで施設の面の改修が図られれば、いつまでも、いつまでも、こういった修繕の繰返し、繰返しだけで運営していくということは解消できると思います。ですので、できるだけ早い時期に行いたいというのはそういう理由です。どうせ新築するのであれば、早めに新築をして新しい校舎で生徒に環境の良いところで暮らして欲しい、それから大規模改修をするなら全面的に一気に大規模改修して、今後あそこが壊れたとならないように早いうちにやりたいというところ。それで、33年4月はこれから皆さんの意見を聴いて、まとめてですね、短期的にはかなりタイトであります。現段階ではこの時期を一つの目標として目指していきたいという考えであります。

《課長補佐（早坂）》

防災の部分、リスク管理の関係につきましてはですね、世界的なテロとかそういった部分を含めまして人数が集まれば、リスクは大きくなるということはあるかと思えます。ただ、現状としてですね、今、少ない小学校でも100人以上、多いところでは300人を超えていると、教職員を合わせるとかなりの人数になりますので、統合、再編しようがしまいがリスクに関しましては学校の方と連携をとりながら管理をしていきたいと思っています。当然、再編して1か所に集まることによって、リスクが大きくなることは当然だと思います。その部分については更なるリスク管理というのが求められると思いますのでそれに対応していきたいとそう思います。再編するとの仮定でのことですが、そのようになろうかと思えます。

《教育長（佐々木）》

前段の御質問のこのビジョンは白紙になるかという質問だったと思います。今いろいろと意見を説明会でいただいております。これを今度教育委員会で協議をするわけですが、ビジョンはビジョンとして、これは当然、いろいろと修正とか意見をその中に取り入れることによって、直す部分も当然出てくると思います。ですから、現時点では、ここで白紙、どうのこうのというお答えはできません。それから、今の当然、小中一貫校も入ってきます。それから部活動の問題ですね、生徒数が少なくなると、皆さんご存じのように大変苦慮しています。今年はある、来年はないとかですね。なんとかかんとか統合、合同チームでやって

いますが、これも3校で連絡を取り合っただけで、当分の間、子ども達の希望ができるだけ叶うようにやっていかなければならないと思っています。それから、中体連等々の問題については、教育委員会でどうのこうのと言えませんので、もちろん、その辺の情報などを聴きながらやっていきたいと思っています。

《課長補佐（早坂）》

保護者の方もお見えですので、どなたかいらっしゃらないでしょうか。

《男性》

小学生と中学生に子どもがいる親です。生徒数が少ないという危機感は全員持っています。このまま現状では駄目じゃないかって感じは受けますし、あからさまな反対意見は出てきていないです、今のところは、私個人的な見解ですけれども。それで部活のことですが、南郷中学校の部活の雰囲気として、美術部に流れる雰囲気が強いです、運動部ではなく。16人という南郷中学校の生徒数に対する割合は多くて、その人数でほかの運動部が運営できていないのが結構あるみたいです。それはそんなものですが、私は小学校で役員をしているのですが、声が聞こえてくるのは小中一貫校になるんじゃないかなあみたいな雰囲気は今のところあって、あとは中学校の分校扱い、美里中学校が本校で分校扱いになるのかなあって感じですかね、私が聴いたところでは。それからスクールバスなど送迎に対する不安の声の方がずいぶんとあがってきています。合併に対するあからさまな反対は今のところないですね。まだ実質問題として考えていないのかもしれませんが。そういう感じです。

《教育長（佐々木）》

近いうちに、そういった保護者の皆さんとの意見交換も考えております。ありがとうございます。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんでしょうか。

《教育次長（須田）》

今、教育長からもお話ししましたように、今度は学校のPTA、保護者を対象に、これが終わりましたら今回のものを総括した後、会場に学校を借りて各学校単位で、9校でPTA、保護者の方に集まっていただいて意見交換会を、今のところ9月頃を予定しています。これから日程調整を行いますが、今のところ9月に行いたいと、さらには幼稚園の保護者の方々と、更には保育所の保護者の方、PTAの方を対象に秋ぐちに行っていきたいと思っておりますので、本日、PTAの方もおいででありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

《課長補佐（早坂）》

保護者の皆さんにはですね、さらに学校に出向いて御説明、それから意見を頂戴したいということでもあります。そのほかございませんでしょうか。

《女性》

人数とか多くなるといじめとか出てきますよね。不登校の子とかもいるようですが、いじめとか不登校とかが増えるのかなって思っています。

《課長補佐（早坂）》

人数が増えることによって、いじめ、あるいは不登校、そういった部分が心配だという意見かと思います。

《教育長（佐々木）》

まさにその辺ですね、人数が増えると子ども達の様子が見えないのではないかと、不登校とかいじめという心配ですが、美里町としては30人未満学級を目標にしています。現在の学級人数は、中学生では1年生が35人学級、文科省の定数は40人ですが宮城県の方で予算化しまして35人学級です。2年生、3年生については40人学級です。3年生なんか1クラスに40人いると本当に大変です。それで美里町では、やはりそういった不登校の問題、それから学習の問題等々を考えまして、30人未満学級、一学年29人かける学級数と、そこに表がありますが、そういった考え方でできるだけ担任、あるいは先生方の人数も増えますし、そういったいじめの問題、不登校の問題に木目細かくですね、統合前とかわからない程度でやらなければならないという考え方でおります。

《男性》

今の質疑に対して教育長の回答であります、なんら回答になっていません。30人、29人の学級にするというのは皆わかっています。言っていることは、そういうふうに通廃合して全部集まったら、いじめがなくなるのかどうかという心配なのです。例えば、カウンセラーを増やすとか、そういうのが回答ではないですか。30名、29名の回答ではないですよ。

《教育長（佐々木）》

基本的には、担任が子ども達を毎日観察します。それで、私が人数を言ったのは、40人を見るのと29人を見るのは担任の感じ方がもちろん違いますと、そういう意味で申し上げました。それから、今言われたように、当然、スタッフが増えますので、そういった生徒指導担当、カウンセラーを含めまして、そういった対応は当然とらせていただきます。大変、失礼いたしました。

《課長補佐（早坂）》

ほかにありませんか。

《女性》

統合した涌谷町で朝に1回で帰りが2回となっているんですけど、運動部とかに入ったら帰りのバスとかは出るのですか。

《教育次長（須田）》

隣の涌谷町の教育委員会で、事務担当者同士でお話を聴いてきたところによりますと、やはり一番には統合を実現するためには、バスの問題、通学の問題をしっかりと解決しないと、その後に大変だと、いろいろな問題が起きる。一番そこに時間をかけ、そして費用をかけているとのこと。それで70人の生徒を朝晩送り迎えするのに5台と聴いて私びっくりしました。ずいぶんと台数があるなど。最低でも5台の車両が必要だったということでした。と言いますのは、朝は始業時間が全部一緒なので一つのバスが行ったり来たりすることは

できないそうです。5台で全部拾って行くという感じなので、そのような形で朝は一便なそうです。部活で朝練習をするお子さんもいるかもしれませんが、朝練習の場合はそれぞれのご父兄で送っていただくこと、朝は一便です。夕方の便の話ですが、夕方の便の1便目は、その5台が部活動をしないお子さんを対象に出発するそうです。そして2便目は、部活動が終わる時間に、部活動も例えば6時までとか6時半までとか時間が決まっていますよね、それで準備が終わって帰る時間に合わせて部活動をした方々を対象に2便目は出発するそうですので、夕方の1便、2便と分けているのは、部活動をするお子さん、しないお子さんに分けていますから、部活動をしていもしっかりとスクールバスで帰れるということです。その中間に帰るお子さんは2便目を待っているとか、1便目に間に合うように急いで帰るとかしかないと思います。

《女性》

朝にバスに間に合わない時は、

《教育次長（須田）》

朝に、バスに間に合わなかった場合にはご父兄の方の送り迎えになります。それでですね、それぞれ地域でここまで来て欲しいとか、あそこまで来て欲しいとか、かなり細かい要望があるそうです。それを全部聴いてしまうと、朝6時半の出発とかになってしまうので、なるべく短い時間で皆さんを運ぶために、幹線方式と言いまして、幹線まではお子さんが歩いてくるか、あるいは、父兄の方が車で連れてくる形でコースをつくったそうです。そうしないと一番に出発する方が6時半に出発してしまいますから、ですから幹線方式で、それぞれの父兄の責任で停留所まではお子さんを送るなり、歩かせるなりしていただく。それで乗り遅れた場合には、各家庭で送ってもらうしかありません。朝は一便と考えています。

《男性》

今、話を聴いていて思ったのですが、ようするに再編ビジョンの方向性ということで、骨子を含めて説明していただいたのですが、その中の質疑応答で、平成33年4月は目標であって、決定ではないんだよと、というようなことを事務局から言いますよね、思うのは、いったい再編ビジョンについて、いろいろな課題を整理した中で問題がこの2つありますよ、あるいは目標がこうですよということについて、しっかりとした説明根拠というか土台が少し緩いのかなということを感じました。それが今参加しての考えです。これまで5会場で開催してきましたが、何人ずつ参加されてきたのか最後に参考までにお聞かせください。

《課長補佐（早坂）》

各会場の参加人数ということですが、最初の本小牛田コミュニティセンターが21人、北浦コミュニティセンターが13人、中塚コミュニティセンターが28人、駅東地域交流センターが42人、青生コミュニティセンターが22人でございます。

《男性》

今聴いていますと、その通りに再編はなるのではないかと、私は今判断しております。通学路ですね、中学生は自転車通学が許されています。スクールバスではなく自転車で通学した

いという子ども達のために、通学路については何も検討していないのではないかと。通学路はかなり傷んでいます。建設課の方に再三にわたって要望を出しているのですが、予算がないとか、順番がありますからとかで、そういう理由でぜんぜん解決されません。今、スクールバスの話しか出ていませんが、私は一番問題なのは通学路の問題だと思います。自転車とか歩行者とかで安全に通学できる体制も同時に検討するべきではないかと思います。どこに作るかはわかりませんが、これは非常に大切な問題だと思います。

《教育次長（須田）》

御意見、ありがとうございます。御指摘の通りです。ほかの会場でも同じような意見が出ています。小学生になるとスクールバスに依存する部分はかなり大きいと思いますが、中学生ですとある程度の体力がありますので、地域では自転車で通うということも出てきます。場所が確定すれば、それに対する自転車と徒歩のための歩道、その整備についてはしっかりとしていきたいと考えております。

《課長補佐（早坂）》

ほかにございませんか。

《女性》

最初の方に戻りますが、小中一貫校の話、もしやるのであれば、美里町のビジョンとして、美里町全体で小中一貫校をきちんと考えていただきたいと思っています。最初の骨子の時に、南郷は人口増が見込めないから小中一貫校だという理由が私は納得がいかなかったもので、内容的にこのカリキュラムが子どもたちにとって良いんだよというのであれば私は納得がいきます。ただ、ゆとり教育と一緒に、結果としての小中一貫校、その結果というのがよくわからないかなと。いろいろなデータとしてはこんなことがあります。メリット、デメリットというのが流れているとは思いますが、ただそれが美里町にとって良いことなのかどうかというところ、例えば中1ギャップがなくなります、いじめ問題が解決しますというところもあるのですが、ただもともとそちらの方であまりあがってきていない中1ギャップもありませんよという話もよく聴いています。ですので、そういった本当のメリットってなんだろうというところが、小中一貫校に関してはきちんと考えなければならぬのかなって思っています。もし、単独で、別紙資料の児童生徒の推計のところの2番です。平成33年度の3校統合と、小牛田中と不動堂中統合、南郷中単独の場合というところがあるのですけれども、これが上の表からは教員が一人増えているという形になっていて、クラス数一つ増えているのですが、南郷中学校に関しては校舎がまだ維持できるというところで、当面の間、平成33年であれば135名と現状から2名の減ということでなんとか現状維持なのかなという感じも考えられています。先ほど言ったぎりぎりの境界線ってどこなのかなあと言うところで最終的に1校になる場合に、この統合した中学校のところ南郷中学校が入る余地を考えての校舎づくりをしておいて、南郷がぎりぎりまで行くというパターンも有りなのかなと考えています。同時に部活動に関して団体が組めなければその部活動が無くなりますよとなっているのですが、当面の経過措置として、例えば、男女で、

団体が組めないならば、例えば卓球なら卓球部、柔道部なら柔道部、人数が確保できなくともやりたい部活はさせたいと思います。団体戦に出られなくても、毎日やることなので、やはり好きなどころに入らせてあげたいなと思います。例えば、バレーボールも、南郷中学校、入れる部活の種類は少ないです。バスケットの女子もなくなっていくというのも聴いています。一人、二人でもやりたいという子がいるのでその辺を、どうしてと言うか、どのように決まっているかはわからないのですが、聴いた話では団体が組めなければその部活がなくなると聴いていました。ただ、一人、二人でも今ある部活に入りたいというのであれば団体が組めなくともやらせてあげたなと思うので、経過措置としてその辺を検討してもらう形で、将来的に1校はいいのかというところと、小中一貫校がいいのかというところにもあるかと思うのですけれども、そうした場合に経過措置などをきちんと、南郷中学校ここまでは存続は可能ですよ、その後は1校に入った方がいいんじゃないかなというところまで知りたいなあと思いました。

《教育次長（須田）》

3点くらいあったかと思いますが、2点目の生徒数がどこまでいったらと線引きですが、これが皆さんにご相談をしたいところです。保護者の方、あるいは地域の方が、生徒は減っても、ここまで減っても学校は存続して、例えば部活動ができないデメリットに関してはこのような形で解消していくとか、そういったものをこれから決めていきたいということです。籠岳中学校は70名ですから、まだ100名ですから、比べて大変申し訳ありませんが、70名に比べれば100名はまだ多いわけで、学校存続としてはできるんですよ。ですので、100名でも学校を存続させたい、あるいは70名でも存続させたいというお考えであればそのような考えでまとめていくということです。あと1つはですね、その中で、大変恐縮ですが、学校の校舎が36年しか経過していない、ただ、20年すると56年の経過になりますので、これからメンテナンスをきちんとやっていっても、そのうちに限界がきます。それらを含めて、生徒の減少と施設の在り方と、そしてその施設が古くなった時に建てれば良いのですが、建てるということは町の財政上かなり厳しいものがありますので、その辺も含めながら地域の皆さんの意見を聴きたいと思います。それからもう1点、今御提案いただいた、小牛田中学校と不動堂中学校がもし仮に1校になるとすれば、そこに将来的に南郷中学校が入れるスペースと言いますか、教室、敷地を、それらを見据えた上での整備というのは必要になってくると思います。

《教育長（佐々木）》

小中一貫校ですが、南郷の場合はそのまま小中一貫校ですね、今も保幼小中連絡協議会のようなものがあります。それから、小牛田中学校区、不動堂中学校区を見た場合、それぞれ実態が微妙に違うところがあります。それで施設一体型と施設分離型の小中一貫校もありますし、それぞれ地域でいっぱい相談しないとなかなかここで中学校区ごとに小中一貫校をやりますということを言えない状況であります。その辺を御理解いただきたいと思います。あと部活動ですね、例えば柔道であれば個人で出れる機会があります、個人戦、団体組めな

くともですね。ただバスケ部とかバレー部は個人戦というのはありませんので、これはかなり難しいところです。その辺は学校でかなり苦勞しているようですが。

《委員長（後藤）》

小中一貫校について補足説明をさせていただきます。小中一貫校にはいろいろな課題がありますので、その辺のところを教育委員会で検討していかなければならないと思っています。例えば、6・3・3制をどうするのか、というような問題。それから中学校の学習課題を小学校に前倒しをして実施する場合、その教育課程をどのようにしたらいいのか、そのようなことをたくさん考えていかなければならないことがありますので、そのようなことをこれから考えながら検討していきます。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんか。

《男性》

中学校1つになった場合、給食の関係はどのようになるのですか。新しく建てるのですか。給食センターでも。

《教育次長（須田）》

給食の配給の関係であります。当然ですね、学校施設の再編がなってくれば、それに伴ういろいろな施設の整備についても考えていかなければならないと思っています。今の学校給食センターも20年なりますので、これもあと20年経ちますと施設的にも限界がきますので、そういうことも含めながらですね、給食の配給、例えばここの給食センターは今までどおり南郷分だけに配給するとか、あるいは、ここから更に病院の方に運ぶとか、それは今後の学校の再編の内容が決まってきて、そしてそれぞれの施設の老朽度を見ながらですね、決めていきたいと思っています。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、ございませんか。

《男性》

どういう形で、美里町の教育をやるのか、文武両道でいくのか、心技体でいくのか、その取り組む姿勢によっては部活というもののあり方、それが決まると思います。一人でもやりたいというのなら文武両道を目指すのなら・・・とやるべきですし、まだ回答はきちんとなっていないのですが、中学生になるとやはり思春期で問題がいろいろ出てくる年頃なのですよ。そうすると、不登校とかそういうのが合併、再編することによって増えていかないのかなというのが先ほどの心配している点です。やはり計画する以上、その辺のところを考慮したプランニングをして欲しいと思います。

《教育長（佐々木）》

不登校問題につきまして、ある地域でも心配されて、もちろん質問も出ました。それで、一概に不登校の原因はこれこれだと言えないところが大変難しいところでありまして、あるお母さんはむしろ、人数が多いとクラス替えができて、子ども達の間関係、友達関係が原

因となって不登校になっていると、そういったことなどを考えた場合、多くの友達がいると逆に良い方向に行けることもあったというお話なども聴いております。これはなかなか難しいところでありまして、もちろん教育委員会としましては現在も不登校対策といたしまして教員の支援をいただきながら、はなみずき教室という名前を付けてですね、取り組んでいます。そういった青少年相談員の配置等々を考えながら、学校と常に連絡を取って、これは統合したことによって不登校が増えたのでは話になりませんので、その辺は十分に配慮しなければならないと思っています。

部活動の問題ですが、学校はよく文武両道、心技体という言葉を使いますが、学力、体力、心の問題、勉強の問題、健康と体力、そういった3つの観点で学校生活を行い、やがて生きる力になるわけですが、部活動ですね、いわゆる心と体の方を中心にやっておりますので、文武両道、心技体、大変難しいのですが、もちろん文武両道ですか、文化面も、学習面も、スポーツの面も両方頑張らしようという基本的な考え、基本的な姿勢であります。

《課長補佐（早坂）》

ほかに、ございますでしょうか。皆様の方から大変多くの御意見を頂戴しました。ほかになればですね、

《男性》

この説明会はあと2か所で、全部で8箇所で行われるようですが、各会場平均20名、160名くらいしか集まらないようです。それはそれでよろしいのですが、いったんこれはこれで進むのでよろしいかと思うのですが、しかし、みんなから貴重ないい意見が出ているところをですね、各会場の一覧表にしてまとめるんじゃないですか、こんな意見が出ました、こんな意見がでました、全部意見を個人個人出したやつを全部網羅してください。そして整理して、とりまとめてだ、人数もちろんですが、それを次の機会、このような機会、第2回というんですかね、予定組まれているようですけども、そのときでは遅いですから、その前に、少なくとも1カ月くらいあればまとめられると思うんです。それをきちんとまとめたやつを保存して、あるいは町のホームページに掲載していただくといいなというのが私からの意見です。それからもう一つ、老朽化の問題、老朽化の言葉をすぐに出すようですけども、私実は2014年2月12日河北新報に載った文科省の建替えか・・・の、こういう新聞記事持っているのですが、ようするに寿命を延ばしましょうという取組をしますということで国でも今まで3分の1補助だったのですが改修する場合は、このときの話だと7割補助しますよと言ってんですよ。これをもう少し研究してですね、次のなんですか、大規模改修か建て替えかということをおっしゃっているのですが、この辺をもっと勉強して研究して取り組んでいただきたいと思います。

《教育次長（須田）》

この会場を含めて全部で8会場の御意見、当然に発言された方の個人名は出せません。女性1、男性1という形で、やはりどういう意見が男性から出ているのか、女性から出ているのかによって違いますのでそこは男性と女性は書かせていただきます。それぞれ皆様の意見

についてはそのような形でホームページの方に掲載させていただきます。それで私はじめ、つまったり、どもったりしているのですが、その辺は口語体ではなくて文語体に直します。趣旨はわかりません。テープ興しをしていると自分でしゃべったのが恥ずかしくなるくらいつながっていません。その辺を読む方が読みやすいようにきちんと直した上でホームページに掲載しますのでどうぞ皆さんご覧ください。さらにそれを集約した、例えば、こういう意見がたくさん出たとか、それらの要点をまとめたものについてもある程度集約して載せたいと思っていますので、よろしく願いいたします。あと一点の老朽化の問題ですが御指摘いただきましたように老朽化対策に対する国、県の財源等をしっかりと勉強した上で、財政的にどうしたら良いのかはしっかりと勉強した上で、検討していきたいと思います。

《課長補佐（早坂）》

はい、よろしいでしょうか。

《男性》

先ほどの意見の関連で私も言おうと思っていたのですが、これ他の会場の意見というのは我われはわからないんですね。教育委員会だけわかっている。関係者ですからね。それで給食センターの時にもそういう問題があったので、会場ごとの全文会議録を是非つくっていただきたい。これは給食センターの時にもいろいろと行き違いがあったのですが、これできてから、言ったの言わないのということがなくなったのです。非常に大切なことであり、また、学校の統廃合というのは町にとって大きな将来を見たときの歴史になりますから、全文会議録で会場ごとにつくるべきだと思います。それから、今日南郷の方でやはり小中一貫校の話が出ました。前も私向こうで、駅東とか南小牛田で話しましたが、南郷の一貫校はないんですねと、という話をしました。というのは中学校を統合してしまえば一貫校はあり得ないです。そうすると南郷小学校だけが孤立してしまう。こういう懸念があるから私は言っているんです。これは大事な問題だと思うので、ここのところをよくはしょらないでよく検討して決められたら良いと思います。

《教育次長（須田）》

御意見として、承知しました。

《課長補佐（早坂）》

皆さんの方から大変貴重な御意見を頂戴しました。そろそろ時間ということで意見交換会の方を閉じさせていただきます。閉会に当たりまして佐々木教育長から挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

今日は皆さん、ありがとうございます。土曜日の貴重な時間ですね、美里町の学校再編について沢山御意見要望等をいただきました。私たちあと2会場ありますが、いただいた意見要望等きちんと整理をして、そして教育委員会でまた協議をし、どうあるべきか、皆さんにお知らせをしながら、あまり時間はかけたくないのですが、ただ、あせらずにですね、じっくり検討しながら進めていきたいなあと考えております。今後とも御協力お願い申しあげ

まして御礼の挨拶にかえさせていただきます。今日はありがとうございました。